

あとがき

文書は時空を超えたコミュニケーションです。カエサルによるガリア戦記は 2,000 年前のローマ帝国の戦いを生き活きと描き出し、紫式部の源氏物語は 1,000 年前の宮廷のこころ模様を細部にわたって語りかける。さまざまな言語によって書かれた文書は、今や高速に全世界に行きわたり、瞬時に各国語に翻訳され、世の中を刻々と変えていきます。

現実の社会ではどの分野においても論理的なレポートが要求され、学位論文・企画書・上申書・計画書・提案書など、さまざまな書類がつくられ、それが社会を動かしていくエネルギーになっています。しかし、日本の中学、高校の教育ではそのような論理的なレポート作成の仕組みを教育し、トレーニングする機会は少なかつたかもしれません。

「レポート」には「カタ」があります。生徒たちはそのカタを示されずに「自由に」書くことを求められることが多く、できれば生徒たちの資質に左右されてきました。しかし、誰でも基礎的なスキルの習得とトレーニングによって、論理的で説得力があり、コミュニケーションや表現の優れたレポートが書けるようになります。

さて、この冊子は公立の中高一貫教育校としては日本初の国際バカロレア(以下 IB)の認定校である市立札幌開成中等教育学校の実例をもとに生まれました。IB プログラムにおける ATL^{※1} は、生徒たちが生涯自律的に学び続けるために必要な知識とスキルの習得をサポートします。4-5 頁に示したようにレポート作成はまさに ATL のスキルを具体的に理解し、身につける最良の機会です。彼らは入学してすぐにレ

※1 ATL=Approaches to learning: 学び方を身につけるための 10 のスキルが 5 つのカテゴリーに分類されている。コミュニケーション / コミュニケーションスキル・社会性 / 協働スキル・自己管理 / 整理整頓 (時間と作業を効果的に管理) するスキル・情動スキル・振り返りスキル・リサーチ / 情報リテラシースキル・メディアリテラシースキル・思考 / 批判的思考スキル・創造的思考スキル・転移スキル
※2 グループワークについては『教室で使えるグループワーク』(2017 年発行) を合わせて参照して下さい。

ポート作成の課題を出され、悪戦苦闘します。冊子の中のそれぞれのケースは彼らへのインタビューをもとにして、現実に関り、悩み、苦勞した内容をそのまま表現しました。そしてその状態から抜け出す方法を示しました。生徒たちはレポート作成のトライ&エラーを通して生涯にわたって学び続けられる ATL のスキルを身につけていくのです。

誠実で科学的で客観的で論理的なレポートは非常に強力です。世の中をスムーズに動かし、個人や社会のストレスを減らし、コミュニケーションを円滑にし、引用が繰り返され、時には大きなうねりとなり未来を拓く革命的な発見や発明につながっていきます。つまり、時空を超えたグループワークです^{※2}。逆にバランスを欠き、誠意のない独りよがりのレポートは世の中をギクシャクさせ、社会のストレスを増大させ、コミュニケーションを断ち切り、人々を分断し、未来までも混乱させてしまいます。

この冊子を使って生徒たちが、伝える価値のあるレポートを書く力をつけ、現実の世界をより良い方向に動かしていくように願っています。

平成 31 年 (2019 年) 3 月

札幌市教育委員会

